



発行所

北東白石まちづくり協議会
地域情報広報委員会
札幌市白石区北郷3条12丁目4-1
北都地区会館
TEL011-875-3077
FAX011-875-7969

あれから一年、忘れないで3.11 教訓を生かせ！津波はもう一度来る

M9の大きな地震が発生し東日本には、地震、津波、原発事故、液状化と、いろいろな問題が派生し、一年たった今もまだ、将来への復興の基本も立たず、避難先での生活を余儀なくされている人たちが大勢いる。

東日本大震災で成功や失敗、悲運や幸運があったが、事実を真摯に受け入れ、深く反省し、分析し将来の復興に生かすべきで、目先だけの事では又次への震災に対応できない。

「想定外」と言う言い訳は「想定すべきことをしなかった」だけの事であり、技術者として恥ずべき発言である。特に原発においては人災であることに憤りを感じる。

今回の震源は沖へ130km深さ24kmの海底が5m隆起したことでM9となり陸前高田は逆に75cm地盤低下したのだそうです。津波も海岸で12.8mの高さになり、南三陸では15.8mを記録、遡上高さでは宮古で37.8mを記録、概ね東北の海岸では10～15mの津波が来ており、釜石湾などでは津波の高さが周辺の2～3倍膨れ上がる「共振現象」がみられ、東松島市でも想定した津波高4mをはるかに越える10mを越す津波が来襲した。

備えあれば憂いなし・がれきで堤防を作れ

2,000万トンとも言われる、がれきの処理で全国に総理がお願いした。なぜだ。なぜ堤防に生かせないのだろうか。三陸沿岸部は明治維新以降に限っても明治(1896年)、昭和(1936年)チリ地震(1960年)と3度、大津波に襲われてきた。風化を繰り返した過去の悲劇を繰り返すな。

防潮堤で津波を止めた例として、岩手県普代村の防潮堤及び水門(15mの高さ)は、過剰設計と批判されたが、津波は12mの高さで3000人の村民で死者ゼロだった。反面、宮古市田老の「万里の長城」は10m高であったが明治津波は38mを記録、やはり低かったのだ。東海第2原発の堤防は70cmで助かった。あと70cm低かったら今回の原発と同じ運命をたどったもしれぬ。本当にラッキーとしか言いようがない。

もう半端な堤防を作っても意味がない。今までの想定2～3倍の高さを想定すべし。

難航する高台移転・がれき処理進まず がれきを復興資源に、堤防と避難路に

なぜ津波の被害にあうのか、それは津波の来る低い土地に住んでいるから。国が危険区域の指定なり、建築制限をするなどの基本が出来ていないからではないのか。本来住んでは危険な所に住むためにはそれなりの覚悟と対策が必要だ。それが出来なくば高台移転しかない。

95年の阪神淡路の時は2000万トンのがれきの半分が土地造成に使われた。横浜の「山下公園」は関東大震災(1923年)のがれきや焼土で作られた。

宮脇昭・横浜国大名誉教授はより具体的に、がれきを埋め盛り土し、タブノキなど常緑広葉樹を植え、

15～20年後に大規模な膨張林堤を完成させると提言している。

地番沈下した地域のカサ上げや高台の整備などにも使える。がれきは復興資源として活用すべきと思う。仮に底辺500m上辺100m高さ50mの台形の堤防を作るとしたら1km作るのに6万トンの土砂が必要だ。海岸沿いにTの字に防潮堤と山に向かっての避難路を作ると2000万トンのがれきがあってもまだまだ足りないであろう。

がれきの事で紙面が無くなったが、原発避難者よりの手記(2面に掲載)を戴いた。彼女はご主人や子どもと一家全員での避難だが、夫を残しての避難者も半数で、現在150世帯が補償もなく暮らしている。取材に訪れて、「一年経ても何も変わっていない」この言葉が印象的だった。わが身に置き換えたとき、国の責任がより重く感じる。



H23.10.12 宮城県名取市にて撮影
まだ道路淵に漁船が放置されたままだった



厚別区厚別西
雇用促進住宅桜台宿舎
避難者自治組織「桜会」

代表 穴 戸 隆 子

あの震災から一年。
札幌でこの日をむかえるこ
とになるとは、当時は夢にも
思っていませんでした。

私の故郷は東京電力福島第二原子力発電所のある町です。

中学校の前、延々と続く桜並木と、きれいに手入れのされたつつじの駅が自慢でした。

爆発した第一原発から10キロ圏内、第二原発からは5キロ圏内の実家に、両親は3度目の一時帰宅をします。我が家なのに、自由に出入りのできない場所。いつまでも帰れると思って帰らないでいた場所。今年こそ時間を作って、夜ノ森の桜を子どもたちに見せよう。こんな素敵な場所でお母さんは育ったんだよ、そう自慢してやろう。そう思っていた矢先の震災と原発の事故でした。

ネットで見ることのできる、事故以後の誰もいないのにきれいに咲き誇った桜並木に、ただただ呆然とします。

私が結婚し、子供を生み、その景色に惚れ込んで移り住んだ町は第一原発から直線で50キロ、そこに、私の家がそのまま残っています。そして、たくさんの方があの町にとどまり、普通の生活をしています。

自主避難・・・その選択をしたその日。
私はもう、ここへは帰れないだろうと覚悟を決めました。娘のために植えた野いちごやゆすらうめ。庭に生い茂るハーブで料理をする楽しみ。四季折々に豊かに表情を変える間近の山なみ。果樹と田畑の間を縫うように走るきらめく川の流れ。鳥たちのさえずり、輝く虫たち、野ウサギも、狸もイタチもキツネも・・・そして、大切な人々。とても大切な・・・友人たち。すべてを捨てて私は逃げるんだ・・・

その後ろめたさと苦しさは今でも私を苛み続けます。

ですが、避難したことを後悔はしていません。私たちの身体にこれから何が起こるのか、何も起こらないのか、それは今、誰にもわからないことです。

でも、福島に残り、万が一子どもに何某かの異変が起きたなら、私はきっと許すことはできなかったでしょう。願わくば、私のとった行動が嘲笑と罵倒で報われますように。何も起きなかったじゃないか、すべてを捨ててあいつらは馬鹿だね。なんて人騒がせなやつだ。そう言われる未来

こそ、私は望んでいるのです。

一年・・・皆さんにとっては節目なのかもしれない。でも、わたしにとってはあの日から連綿と続く一日でしかありません。

まだ、何も終わっていない。まだ、原発の事故は収束していないのです。

それでもあえて無理に一年を区切るのであれば、それは私たちを受け入れてくれた皆様への感謝の一年であったと言えます。被災地の私たちに暖かく手をさしのべてくれたこと、深く御礼申し上げます。

<<第2回雪遊びフェスティバル>>

第2回の雪遊びフェスティバルが平成24年2月5日（日）午前10：00～午後12：00にかけ川下公園において開催されました。

当日は晴天で穏やかな天候に恵まれた中雪上ラフティング（スノーモービルでゴムボートを引く）、雪山滑り、大声コンテスト、スピードガン測定、輪



投



げ、大ボーリングなど多種のゲームで盛り上がりそれぞれの競技場から子どもたちの元気いっぱいの声が聞こえていました。

本部テントでは、甘酒、ホットココア、ホットカルピスの無料提供があり、一口ごとに冷えた体を温め、元気にゲームで遊ぶ姿が見られました。



北都町内会室内スポレク大会

青少年部主催、室内スポレク大会（ミニ運動会）が、2月12日北都小学校体育館で開催されました。

一年間の青少年部活動への参加と協力に対しての感謝と、豪雨や東日本大震災そして原発事故等で暗い一年でありました。教訓として相手を思いやる気持ちや、地域・学校・家族・友達との

「絆」の大切さの必要性を学ぶことが出来た年でもありました。今日の室内スポレクは、競技を通じて更に「絆」を深めて頂きたいという思いで、子供から大人まで、箸の使い方、二人三脚や、入歯で大変だった菓子食い競争等々で、笑顔と笑いが弾けていました。終了後は、青少年部の若い奥さん方？の

作った豚汁とおにぎりに舌鼓みし、「美味しい」の声で一安心。今後この輪を広げていけるような活動が必要と感じました。

子どもからお年寄りまで120名の参加で楽しく意義ある一日を過ごしました。



第9回 かわきたゆきまつり

平成24年2月18日（土）・19日（日）両日に、かわきたゆきまつりを川北児童会館、児童会館前空地、川北小学校グラウンドで開催しました。

前日に前夜祭としてアイスキャンドル点灯式、ハンドベル演奏など、また、19日当日は好天に恵まれ大勢



の子どもたち、保護者の皆さんの参加により、ステージ演奏、滑り台、かまくら、雪像コンテストなど楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

川北小学校グラウンドでは、馬そり、ミカン拾いなど大人気でした。

参加お手伝いをいただいた大勢の皆さん、寒中お疲れ様でした。

北都なかよし子ども会ひな祭り会開催

恒例となった、子ども会のひな祭り会が2月19日北都地区会館で、定員70名のところ79名の参加で行われました。

子ども達の健やかな成長を願い、自主的な活動や異学年の交流を側面から育成会が支援しております。



今年は、町内の方から寄贈された雛壇2台が舞台にならび、お内裏さまと・お雛さまの見守る中で、子どもの手による進行とゲームやレクダンスを通じてお互いの「絆」を深めあいました。

その後育成会より、手作り桜餅・あんかけ焼きそば・ザンギ・おにぎり・フルーツポンチ・卵焼き・お菓子等、子どもの要望に答えたディナーに子ども達も大満足で笑顔、笑顔で楽しい一日を過ごし、子ども会の一年間の行事を締め括りました。

子ども達がこの街に住んで良かったという思い出になる「ひな祭り会」であればと思います。

社協・市民講座 認知症について開催

もしかして私も認知症？

認知症とは、どう気づき、どのように対応すればよいのか。希望を持って暮らすには、認知症は予防できるのか、施設から在宅での生活が出来た事例などなど、私たちの周りで起きている疑問、自分自身への心配、疑問、対応など、認知症に関して、もっと知っておこう。

平成24年
2月17日

13:30～北都地区会館において北東白石地区社会福祉協議会主催の市民講座が開催された。



講師には看護師の経験を生かし、グループホーム福寿荘を経営し、総施設長も兼ねる(有)ライフアート社長の武田純子氏（写真）をお迎えし、実体験を通じてのお話を聞くことが出来ました。

東日本被災地に夢と希望を！ 復興支援にあなたのエールを！

ちょっといい話

北東白石連合町内会表彰される

札幌市では防災施策の推進及び実践のあった団体に対して防災表彰を行っていて、今年度白石区からは当連合町内会が団体表彰を受けました。

表彰式は平成24年1月30日市役所本庁12階において執り行われ、表彰式終了後、札幌市自主防災セミナーが開催されました。

劇団「風の子」がやってきた！

3月4日（日）川北町内会福祉部、青少年部合同事業で、劇団「風の子」の公演が川北会館で開催されました。

作品「山を越え、川を越え」は3名の劇団員が「山を越え、川を越え」て、川北にやって来たとの想定で、新聞紙やビニール袋を様々に使った遊びを展開しました。作品「まほうのりんご」は少年が母の病気を治すため、魔女のりんごを取りにいく創作物語でした。親子3世



代で参加された方もいて、乳幼児から高齢者の方々82名が参加され、子ども大人も大いに笑い、拍手をして声援を送り、楽しいひと時を過ごしました。終了後、「面白かった」「また見たい」と次回を期待する声を頂き、盛況のうちに終わることができました。

雪解けの街をきれいに！！

雪解けとともに、ごみや犬の糞などが目立ってきます。ゴミステーションは、家庭から出るごみを収集するために、欠かせない大切な場所です。個々のゴミステーションの周りなどお互いにきれいにし、さわやかな春を迎えましょう。

パソコン講座 ワード・エクセル（初級～中級）

ワード・エクセルの初級から始まります。一年間を通じて中級までを開催しています。毎月2回、土曜日（13:30～15:30）、4月14・21日
場所：遊学館パソコン教室（川下3-7緑香ビル2F202）連絡先873-8686島田まで（無料です）

「北の郷里」のホームページ見てください

お店の紹介ページ掲載募集中（無料掲載）事務局まで北13条通から初めております。皆さんのお店紹介します。

行事予定案内

行 事	開催日	時 間	場 所
早朝街頭啓発	4月6日	8:00～	札幌信金前
小学校入学式	4月6日	11:00～ 13:00～	北都小学校；東川下小学校 川北小学校
東川下老人クラブ創立30周年 記念式典・祝賀会	4月8日	13:00～	東川下記念会館
川下町内会総会	4月8日	13:00～	川下会館
北都中学校入学式	4月9日	10:00～	北都中学校
川下団地自治会総会	4月14日	19:00～	川下団地集会所
北都町内会総会	4月15日	13:00～	北都地区会館
東川下町内会総会	4月15日	13:00～	東川下記念会館
川北町内会総会	4月15日	13:00～	川北会館
東川下団地自治会総会	4月15日	13:00～	東川下団地集会所
連合町内会定期総会	4月22日	16:00～	北都地区会館
北都地区会館運営委員会総会	4月25日	19:00～	北都地区会館
早朝街頭啓発	5月7日	8:00～	市民生協前
まちづくり協議会総会	5月10日	19:00～	北都地区会館
日赤北東白石分団総会	5月16日	10:00～	北都地区会館
社協・福まち総会 総会の日18から17に変更になりました	5月17日	18:30～	北都地区会館
春の清掃運動	4月8日～5月13日		

平成24年春・小中学校卒業・入学生数

H24.3.25現在	卒業生数	入学生数
北都中学校	201	219
北都小学校	81	65
東川下小学校	60	53
川北小学校	145	139

――― 編集後記 ―――

◆「感動、勇気、笑顔、日本中に届けます。日本の底力絆を見せましょう」被災地宮城の石巻工高、阿部翔人主将の力強い選手宣誓で春の全国高校野球大会が開催されました。

大震災、地震、津波、福島原発事故と、あれから一年厳しい冬を乗り越え春がやってきました。

被災地では今でもまだ、復旧、復興に向けて、皆苦しみ悲しみに耐えた、つらい一年であったと思います。

阿部主将の言葉に「いま高校球児にできること、全力で戦い抜き最後まであきらめない、今野球ができることに感謝し、全身全霊で、正々堂々とプレーすることを誓います」・・・被災地全国へと若い力みなぎるプレーが今新たな光となって広まっていくことでしょう。正々堂々と憧れの甲子園で行進する姿に感動！、テレビの前で拍手。頑張れ日本、頑張れ若者！。

◆異動の時期、北都中藤澤校長が転勤に寂しくなります。◆でも学校は年を取らない。いつも4月には一年生が入ってきます。ランドセルを背負った新一年生。通学時等、事故に合わぬよう地域の皆さん宜しくネ。